

消防団長紹介

和泉市消防団 団長 萩本 惠隆

和泉市は大阪府の南部に位置し、和泉山脈を境に和歌山県に隣接し、北側は堺市とまた、西側では岸和田市と隣接しています。和泉市は大阪市内のベッドタウンとして人口増加傾向にあり、近年中部の丘陵地に大型店舗や工業団地が形成されています。また、和泉市には弥生時代の集落跡として全国有数の規模を誇る池上曾根遺跡や本市南部に広がる和泉山脈には西国33所第4番札所の施福寺があり多くの参拝客で賑わっています。

和泉市消防団は、昭和31年9月に発足し、現在1団、9個分団、37個班で構成され、出場は火災のみならず台風や集中豪雨などの自然災害にも対応し、各団員が郷土愛の精神をもって、災害から地域住民の生命・身体・財産を保護するため、昼夜を分かたず、地域防災の中核として、住民が安心して生活できる安全な地域づくりに、全力を注ぎ、消防本部と車の両輪のごとく、一体となって活動しています。

私は、平成10年に入団以来、平成15年に分団長、平成25年4月からは副団長を歴任し、令和3年4月から団長に任命されました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、平成15年に分団長に就任した年の12月に発生した倉庫火災が記憶に残っています。この火災は深夜にも関わらず、立ち上がる黒煙は遠方からも確認できました。倉庫は無人で化学繊維、機械、車両が燃え、爆発が幾度も起き、住宅に延焼拡大するなど、消火活動は困難を極めましたが、地域の皆様による炊き出しの支援もあり、長時間の消火活動を乗り越えられたものでした。この火災を通じて、地域防災は消防団だけではなく、地域全体で作ってあげていくことが要であると痛感した災害でした。

消防団は、自らの地域は自らの力で守るという精神に基づき、地域の安心・安全を確保するため、火災や大規模な自然災害に立ち向かうと共に、平常時においても地域に密着した活動を行います。

和泉市消防団も災害はもちろん地域ぐるみで参加できる様々な取組を積極的に実施しています。こうした取組を通して、一人でも多くの住民が自助、共助の意識を再確認し、今後発生が危惧される大規模災害などへの備えを行い、地域防災力の向上に努めていきたいです。